

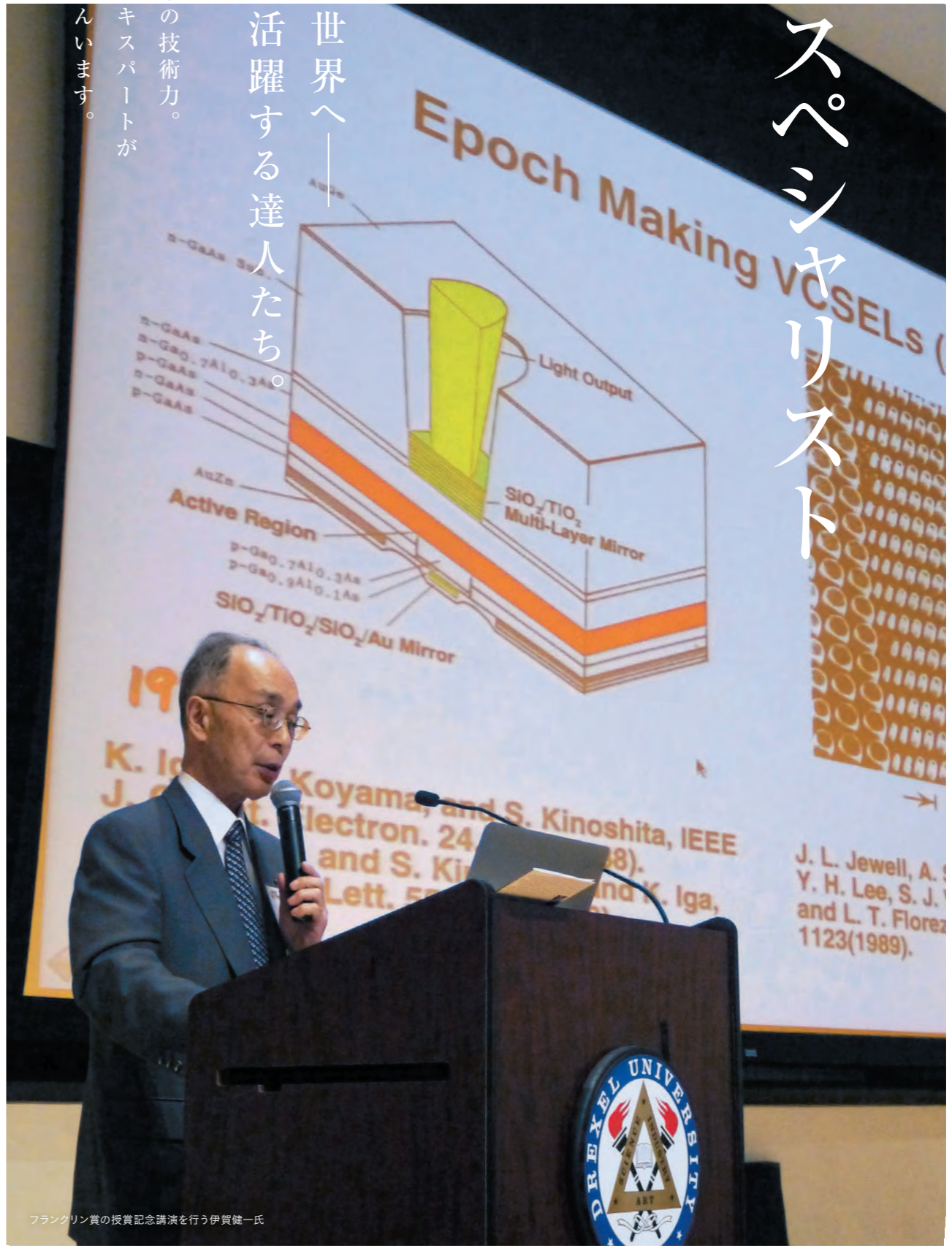


特集 1

町田のスペシヤリスト

町田から世界へ——
最先端で活躍する達人たち。

世界に誇る日本の技術力。
様々な分野のエキスパートが
町田にもたくさんいます。



フランクリン賞の授賞記念講演を行う伊賀健一氏

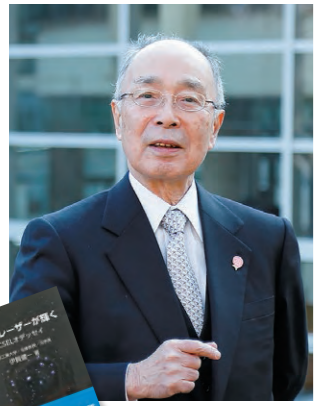
01 世界に誇る 町田の発明家たち



東京工業大学名誉教授の伊賀健一氏は、「面発光レーザー」の発明で世界的な科学者として知られている。その功績で、町田市は2013年に市民栄誉彰を授与。また、ディープラーニングの父と言われる福島邦彦氏、みつばち研究の第一人者、松香光夫氏、超高速半導体素子の一つ、HEMTを発明した三村高志氏をはじめ、世界レベルの研究者たちが町田市には居住している。

「高輝度青色発光ダイオードの発明」で2014年にノーベル物理学賞を受賞した赤崎勇氏も、松下電器東京研究所基礎第四研究室室長時代の1971年から20年弱、町田市能ヶ谷に在住していた。

工学博士
伊賀 健一
Iga Kenichi



東京工業大学教授、米ベル研究所客員研究員などを経て2001年4月に名誉教授、2007〜12年東工大学長。1977年に発明した「面発光レーザー」は、高速データ通信のキーデバイスやスマホの顔認証など今日のIT社会を支える不可欠な技術。2013年に世界的な学術賞であるフランクリン賞・パウワー賞を受賞。昨秋の叙勲では瑞宝重光章を受章した。1968年よりつくし野に在住。町田、町田フィルハーモニー交響楽団では首席コントラバスを歴任。町田フィルバロック合奏団の主宰者でもある。

「面発光レーザーが輝く」
VCSELフォトデバイス
2018年

エジソンやアインシュタイン、ビル・ゲイツも受賞したフランクリン賞の授賞式の1カット



Photo by New Communications Inc



理学博士
松香 光夫
Matsuka Mitsuo

玉川大学卒業、理学博士(東京大学)、元玉川大学教授。日本におけるミツバチ科学研究の中心的存在の「玉川大学ミツバチ科学研究センター」でミツバチとその生産物の研究に貢献、日本応用動物昆虫学会名誉会員、日本生物教育学会(会長)、前アジア養蜂研究協会会長。玉川学園に在住し、玉川学園町内会長も務めた。

大学退職後、自宅の庭でミツバチを飼い、100%玉川学園産ハチミツ「松香ハニー」を作った



工学博士
福島 邦彦
Fukushima Kunihiko

急成長するAIのベースディープラーニングの中核となるCNN(畳み込みニューラルネットワーク)を世界で最初に作った。NHK放送科学基礎研究所にいた1979年、その原型であるネオコグニトロンを発明。その後1989年大阪大学教授、1999年電気通信大学教授などを経て現在はフジシステム研究所特別研究員。1972年より三輪町在住。



『神経回路と情報処理』
理(朝倉書店刊
1989年)



工学博士
赤崎 勇
Akasaki Yuu

1929年、鹿児島県生まれ。京都大学理学部化学科卒、半導体工学、結晶工学が専門。世界初の高輝度青色発光ダイオード(青色LED)の発明で2014年ノーベル物理学賞を受賞。1981年名古屋大学教授、1992年より名城大学教授(終身)。2004年文化功労者顕彰、2011年文化勲章、ほか受賞歴多数。



工学博士
三村 高志
Yamamura Takashi



携帯電話や衛星放送といった情報通信技術に欠かせない高速かつ高性能の半導体部品「高電子移動度トランジスタ」(HEMT)を1979年、世界に先駆けて開発した。昨年は稲盛財団主催の京都賞を受賞。現在、独立行政法人情報通信研究機構未来ICT研究所統括特別研究員並びに富士通研究所名誉フェロー。東玉川学園に1980年から在住。

京都賞受賞者のアーカイフバ
ネルの前で妻子夫人と共に

INVENTORS

